

銀賞 出村由貴子君

北海学園大学工学部建築学科

刻印された建築空間—神々が威る岬が今伝えること—

瞬時にしてこの作品の魅力に己を引き込まれる。「地中美術館」を連想させるのが少々残念ではあるが力作であることは間違いない。プリミティブな自然体と建築の駆け引きのような、コラボレーションのような、とっても心地よいその空間は神々の領域のようにも見える。美しいプレゼンテーションは一層その結界を危うくさせ、単体の建築はつつい牙城な存在になりがちであるが、こんな相克しあう建築も我々建築家にとって一つの方向性を示してくれた作品である。感謝したい。

(文責：中山 眞琴)

